

私たちが目指す相談支援専門員の姿 ~障害当事者である本人の生活を支援するために~

東京都相談支援従事者研修検討会作成

東京都で活動する相談支援専門員の態度と姿勢は…

- 1) 一人ひとりの「暮らし」を知るために、障害当事者の声を聞く
- 2) 本人の思いや将来に向けた願いを受け止める
- 3) 本人とともにあらゆる社会資源を活用し、創り出す
- 4) 障害者ケアマネジメントの理念を具現化する役割を持つ
- 5) 本人自身が力を発揮できるようエンパワメントを支援する
- 6) まだ出会っていない、支援を必要とする人々の存在を想像する
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う中心になる

相談支援と地域

東京という地域

自分の地域



相談支援専門員は、

- 1) 地域を出発点とし、地域の強みと課題を把握して、ニーズに向き合う
- 2) 利用者一人ひとりのニーズは地域のニーズと知っている
- 3) 地域（自立支援）協議会を地域課題解決のツールとして活用する

| | |
|-----------|---|
| 「本人中心」 | : 本人の思いや願いに寄り添い、本人中心の支援を行う |
| 「社会モデル」 | : 障害を社会の状況・環境との関係の中で理解し、とらえる |
| 「エンパワメント」 | : 本人が持っている力を信じる |
| 「権利擁護」 | : 人としての存在と尊厳を守り、あらゆる人権を尊重する |
| 「地域に根ざす」 | : フィールドとする東京都及び区市町村の地域性の把握と、地域福祉の向上に努め続ける |

価値

[相談支援専門員の土台となるもの]

- ・東京都における障害福祉の歴史
- ・本人が暮らす地域とその社会資源の理解
- ・本人を理解するための、障害についての知識
- ・ケアマネジメントプロセスの基本的理解
- ・法制度や福祉サービスの知識

知識

- 1) 本人と信頼関係を構築できる
- 2) 基本的な面接技術に習熟している
- 3) ニーズを的確に捉えることができる
- 4) わかりやすい計画を立案できる
- 5) サービス提供者や行政等と協働する力がある（交渉・調整）
- 6) 個別支援で得た地域課題を協議会等のネットワークを通じて積極的に発信・共有できる
- 7) 地域で人々が交流し、育ち合う働きができる（ファシリテーション、スーパーバイジョン）

技術

[東京都の研修のしくみ ~相談支援専門員もエンパワメントのプロセスをたどる~]

初任者

キーワード:
知る

【受講者が目指すもの】
個別性を尊重した支援を着実に実施できるようになる。

【学ぶこと】
本人主体の理解とソーシャルワーカーとしての知識・価値と倫理・技術の理解を一体的及び構造的に学ぶ。

現任

活用する

【受講者が目指すもの】
個別性への着眼点のみならず、地域資源の開発・改善を担えるようになる等、相談支援専門員としての成長を図る。

【学ぶこと】
自身の地域での実践（個別支援・チームでの支援・地域資源の活用等）を振り返り、改善点や解決策を探る。

【ステップ2】チームワーク、地域の活用

研修受講者に求められる力 【ステップ1】 本人中心の個別支援

専門コース別

【受講者が目指すもの】 相談支援に必要かつ専門的な知識と技術の獲得

【学ぶこと】 相談支援専門員として求められる最新の知識や専門的支援技術等

【ステップ3】人材育成

【学ぶこと】

優れた実務者との（学習）交流をとおして、演習指導に必要な技術を学ぶ。

【ステップ4】地域づくり

【ステップ5】運営管理

[国が考える地域や立場の違いによる相談支援専門員の役割]

第3層：地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発など

主な担い手⇒基幹相談支援センター、地域（自立支援）協議会

第2層：一般的な相談支援

主な担い手⇒市町村相談支援事業

第1層：基本相談支援を基盤とした計画相談支援

主な担い手⇒指定特定相談支援事業